

(続紙 1)

| | | | |
|--|---|----|---------------|
| 京都大学 | 博士 (地域研究) | 氏名 | Nguyen Thi Le |
| 論文題目 | Childbirth among Ethnic Minority People in Northern Vietnam: Choice and Agency in the Hmong Case (北部ベトナム少数民族における出産 —モンの事例にみる選択と行為主体性—) | | |
| (論文内容の要旨) | | | |
| <p>本論文は、ベトナム北部山地に居住する少数民族モンの出産に関する実践に着目し、彼ら／彼女らが一定の政治・社会的条件のもとで、如何にそして何故、出産をめぐる選択をするのかを二つの村における民族誌的調査に基づいて分析する。その結果、現代医療と民俗医療の交差する文脈において、モンの人々はその両方を、柔軟かつ実践的に取捨選択しながら融合的に利用していることを明らかにする。出産時のモン女性の医療選択は動的であり、距離・コスト・医療の質や文化的実践など様々な要素の複合的な相互作用のなかでバランスをとり、究極の目的、すなわち母子の安全を保障するための最善の選択を行っている。民族誌記述に基づく分析によって、モンの人々がこれまでいわれてきたように「文化的要因」や「構造的暴力」の中で出産時の選択をするのではなく、平地社会との不平等な構造にあって行為主体性を行使していることを示す。</p> <p>論文は、7章から成る。第1章では研究の背景、問い、先行研究、理論的枠組と方法を示す。理論的には、エスニシティと民族間関係、医療と出産をめぐる選択、そして行為主体性の三つの領域を相関させた枠組を提示する。第2章と第3章は、北部山地における出産の実践に影響を及ぼすグローバルな動きやベトナム社会とその政治および少数民族を含む歴史というマクロな文脈を明らかにする。第2章では、ベトナムの民族構成と、植民地期以降の政府が少数民族分類により山地少数民族に対して差異のレジームを形成しつつ統治してきた歴史を概観し、モンの歴史、人口や分布、呼称や下位分類などを紹介する。そして、ベトナムにおいて国家開発過程に少数民族を統合する「文明化プロジェクト」の中でも後進的とされるモンをめぐる言説について紹介し、民族ステレオタイプとともに生じた差別の過程を明らかにし、それが少数民族の出産時の選択に影響を及ぼしていることを論じる。第3章では、ベトナム政府が少数民族地域の出産実践にどのように関与してきたかを検証する。少数民族地域のリプロダクティブ・ヘルスにおける格差、その中でも特筆されるモンを筆頭に、北部山地では例外的に出産における医療保健施設の利用率の低いことを指摘する。そして2000年以降進められてきた諸政策では、近代的な保健医療施設での出産や、少数民族地域における産婆教育プログラムが進められたこと、にもかかわらず設備や人員が整わず、効果が上がらないこと、そしてそのことが少数民族の伝統や慣習、後進性や非合理性によって理由づけられてきたことを論じる。</p> <p>第4章では、調査対象の二つの村とそこでのモンの生活世界が描かれる。そして、モン</p> | | | |

の土地と人々が、マクロな文脈の変動のもとで伝統と現代の間を揺れ動く様子によって、モン社会を動的に描く。伝統的なモンの出産実践の社会的な文脈のみならず、多元的医療状況にあつてモンの村人が選択をおこなう理由を考察するための背景を検証する。

第5章と6章は、実際のモンの出産について論じる。第5章では、モンの自宅出産の事例が紹介され、出産や健康全般をめぐる民俗医療やその専門家を紹介する。そうした民俗医療は、公的医療制度の導入後に数十年をかけて変化してきたとも考えられるが、ここではモンの人々の民俗医療による出産を理解する上で豊かに文化・社会的文脈を再構成し民族誌的に描いている。第6章では、二つの村のモンの産前産後を含む出産における実践を200名のモン女性へのインタビュー資料に基づく統計分析と、長期滞在調査による参与観察から得たデータに基づいて分析する。それにより彼女らが保健施設での出産と自宅出産の間でどのように選択を行うか、その要因を明らかにする。

第7章は、これまでの各章のデータと分析に基づいて、議論と結論を提示する。自宅出産は奨励されていないとはいえ、山地の保健医療施設における近代医療が必ずしも十全な形で提供されていないなかで、近代医療と民俗医療の選択を迫られるモンによる柔軟な選択のありようを、行為主体性と序章で示したその類型によって説明する。構造的な諸要因によって必ずしも意に沿った選択ができるわけではないことを示したうえで、従来の文化や伝統によって彼等の近代医療受容の低さを説明する言説に反論し、むしろ医療システムの混交（Syncretism）として説明する。最後に、近代医療におけるケアのみをあるべき出産の姿とする論調に対し、モンの出産から学ぶべき点を示唆している。